



本田 秀博さん
Hidehiro Honda

【甲佐高校野球部 責任教師】

現在、一学年30名前後の甲佐高校の野球部責任教師を務める。「毎年新入生が3名入部してくれれば、チームが組めて部活動も盛り上がるんですけどね」と、密かな希望を抱いている。

野球ができる環境を守りたい 高校球児と共に歩む野球道

「生徒たちが立つグラウンドを整えて、いつでも野球ができる環境を守りたい」と語るのは、着任して9年目を迎えた甲佐高校野球部責任教師の本田秀博先生。

人吉、八代、御船、熊本農業と高校野球に携わり34年。今年7月、長年力を注いだ功績が評価され、高校野球の育成と発展に尽くした指導者を選表彰する「育成功労賞」に選

ばれた。

「小学生の頃から野球をしていて、阪神ファンでした。周りは巨人ファンばかりで、試合結果で本気のケンカになることもありましたね」と少年時代を振り返り、笑う本田先生。高校まで野球を続け、進学のため一時は競技を離れたが、「やっぱり野球が好き」との思いから、教員として高

校に戻り、今度は指導者として再び野球と向き合う日々が始まった。

甲佐高校野球部は現在、部員不足のため、御船高校や八代農業高校等と連合チームを組んで活動。「着任当初はギリギリ単独チームでやれていました。今は生徒数の減少もあって難しい状況です」と厳しい表情の本田先生。それでも決して野球の火を絶やすことなく、毎日グラウンドに足を運び、草刈りをして、雨が降れば水たまりを埋め、整地する。そんな地道な作業を続けてきた。「野球ができる環境を維持すること。それがまず大切なんです」と、強い責任感を持ってグラウンドに立ち続けている。

現在の甲佐高校野球部員は1年生2人。中学時代は野球以外の競技に取り組んでいた生徒たちだという。「野球部に入部してくる子たちは、高校に入って初めて野球に触れる子も多いので、けがをさせないようにつつ丁寧に教えています」と、安全第一の指導方針を語る本田先生。平

日の練習は放課後の短時間で、連合チームとしての合同練習は、公式戦が近づくとシーズンに限られるという。それでも、「人数が少ないからこそ、生徒一人ひとりとしっかり向き合える。それがこの学校の魅力でもあります」と静かに語る。甲佐高校に着任して9年目の本田先生は、「若い先生が現場を引っ張っていかなくてはだと思っと思っています。私は裏方として、環境を整えて支えていければ」と、年齢を重ねた今、支える立場としての役割も大切にしている。

甲佐高校の未来を見据える本田先生は、「これから入ってくる生徒たちのためにも、野球ができる環境だけは整えておきたい」と広いグラウンドの整備に余念がない。自身の経験も踏まえ、白球を追う野球部の生徒たちを見つめながら、「野球を通して得た経験は、きっと将来の力になります。その環境を守り続けていきたいです」と本田先生は、きれいに整備されたグラウンドを見つめ、野球を通じて生徒の成長を願う。